

# 令和5年度 第2学年 授業改善推進プラン

台東区立金曾木小学校

## 1 児童の状況及び実態を踏まえた課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読むことのテストにおいて、到達率は8割を超える。残り2割程度は、問題を読まずに、独自で題意の見当を付けて答えを書き始めてしまったり、テストの本文にない答えを書き込んでしまったりするため間違えた解答を書いている。</li> <li>・漢字を正しく読んだり書いたりすること。</li> <li>・片仮名を文章の中で適切に用いること。</li> <li>・作文を書く上で、句読やかぎを正しく用いることや、構成を考えて段落を付けること。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1割程度の児童が、文章問題において、文章を読まずに出てきた数字の順に式にしている。</li> <li>・式は正解しているが回答を題意に合わせて書くこと。（例）「～が～個多い。」</li> <li>・答えの求め方や、自分の考え方を説明すること。</li> <li>・大きな数になると数の仕組みが混乱すること。</li> <li>・水のかさや長さなどの量感が身に付いてないこと。</li> </ul>

## 2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に必要な国語の知識を身に付け、国語に親しむこと。</li> <li>・自分の思いや考えが明確になるように文章の構成を考え、事柄の順序に沿って書くこと。</li> <li>・楽しんで読書をし、豊かな言語感覚を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読の機会を増やし、語のまとまりを意識させ、語彙を増やす。</li> <li>・漢字のドリル練習に取り組みせるとともに、文章を書く上で習った漢字を適切に用いることができるよう意識させる。</li> <li>・身近なことや経験したことを報告したり、見聞きしたことを書いたりする活動を取り入れる。</li> <li>・学習で知った作者や筆者の本を紹介したり、週1時間の読書の時間を確保したりするなどして、読書に興味をもたせるとともに、読書習慣が身に付くようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解する。</li> <li>・自分の考えを説明する力。</li> <li>・およその検討を付けながら、量の感覚を身につけること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書に具体物を用いて、数の構成を分かりやすくする。</li> <li>・自力解決の時間を確実に設定し、文章、図や絵などを用いて説明させる機会を増やす。</li> <li>・提示されている問題場面を確認、整理して考えられるように図や表を活用する。</li> <li>・水筒やコップ、ものさしなどの日常生活で使用しているものと結びつけ関心を高められるようにする。</li> <li>・単元ごとのワークテストで、9割以上正答できる児童が9割以上にするために、学力向上推進ティーチャーと連携して指導の充実を図ることで、知識の定着を目指す。</li> <li>・個に応じた指導を行うことで、どの児童も意欲的に学習に取り組めるようにする。</li> </ul>